

西光院阿弥陀堂建造物調査報告書

1. 所在 宮代町字東 410

2. 構造・大きさ

屋根 寄棟造り、萱葺

正面 3間

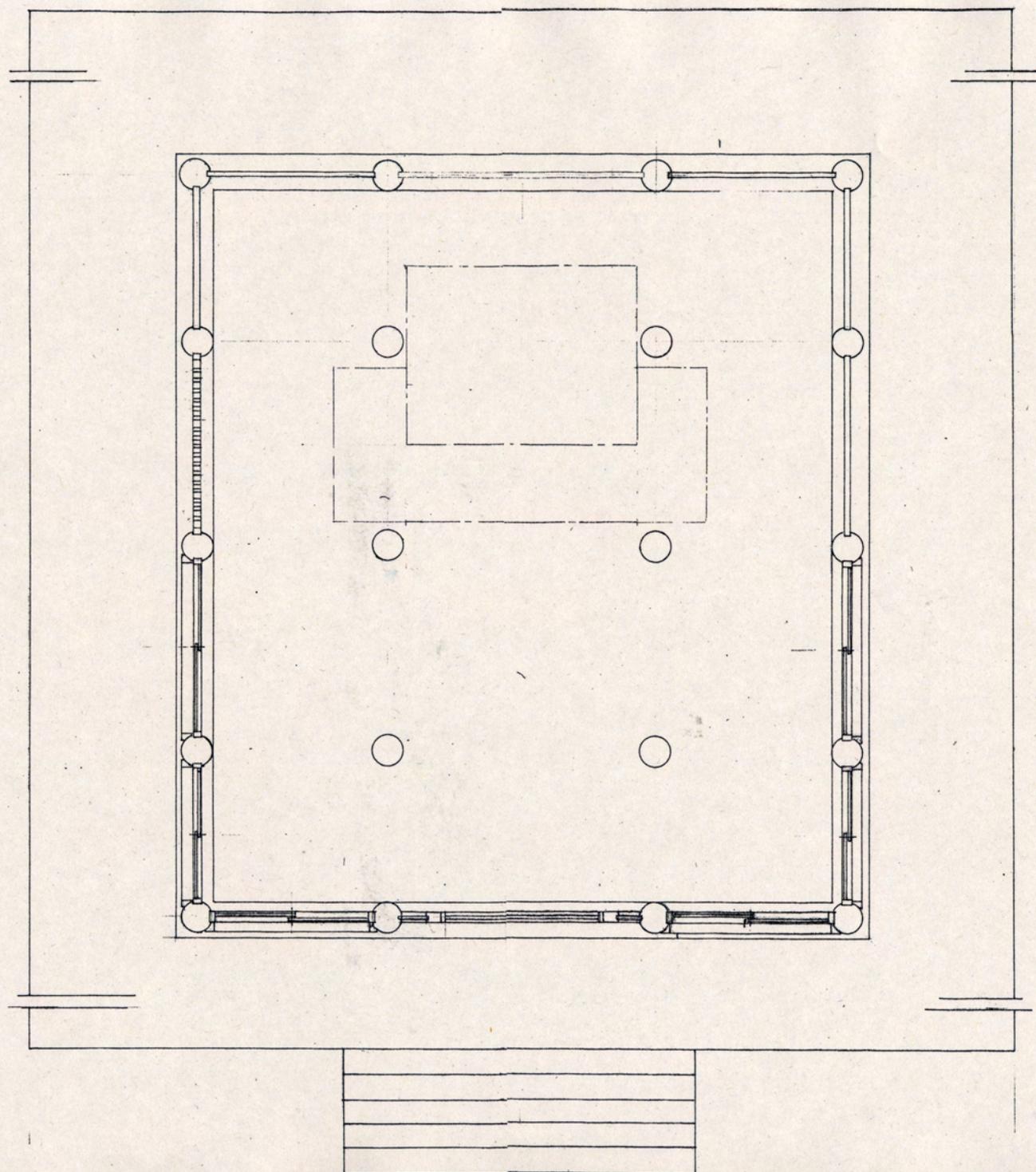
側面 4間

3. 概要 西光院は奈良時代の僧行基の草創と伝えられる。阿弥陀堂は江戸時代には、西光院の境外地にあった。戦国時代以前の真言宗に改修する以前の百間山光福寺西光院の本堂であった。建物自体は室町時代の建造物と伝わる。阿弥陀堂に鎮座した阿弥陀如来像の後頭部には長禄2年(1458)の墨書が記され、阿弥陀如来像の修理をした時期が分かる。阿弥陀堂は建築様式等から阿弥陀如来像が修理された長禄2年の可能性が高い。

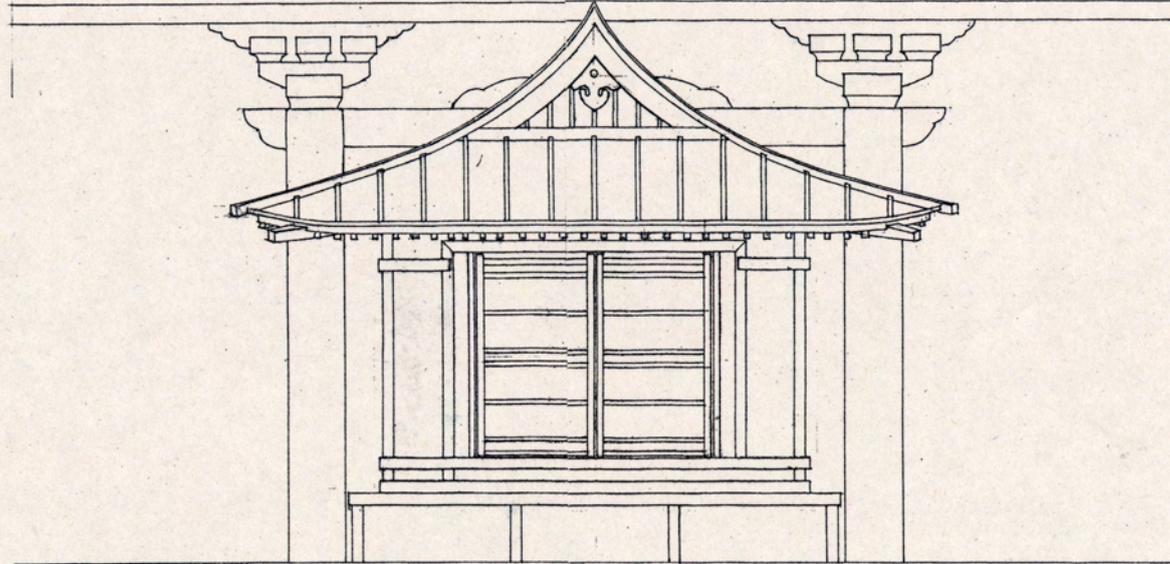
阿弥陀堂は五社神社や雷電宮と並び東方に向いて建っていた。昭和20年代、阿弥陀堂の解体修理を行うため解体した部材を西光院客殿脇に置いていたが、昭和27年の西光院の火災により焼失した。現在は墓股が残るのみである。今回の報告は、写真や聞き取り調査等から建物を推定復元したものである。

4. 建築年代 室町時代の建物で1間の長さは7尺であったと伝わる。阿弥陀如来像の後頭部にあった墨書きによると長禄2年(1458)に修理を行ったことが分かるため、阿弥陀堂もこの時に建築された可能性が高い。

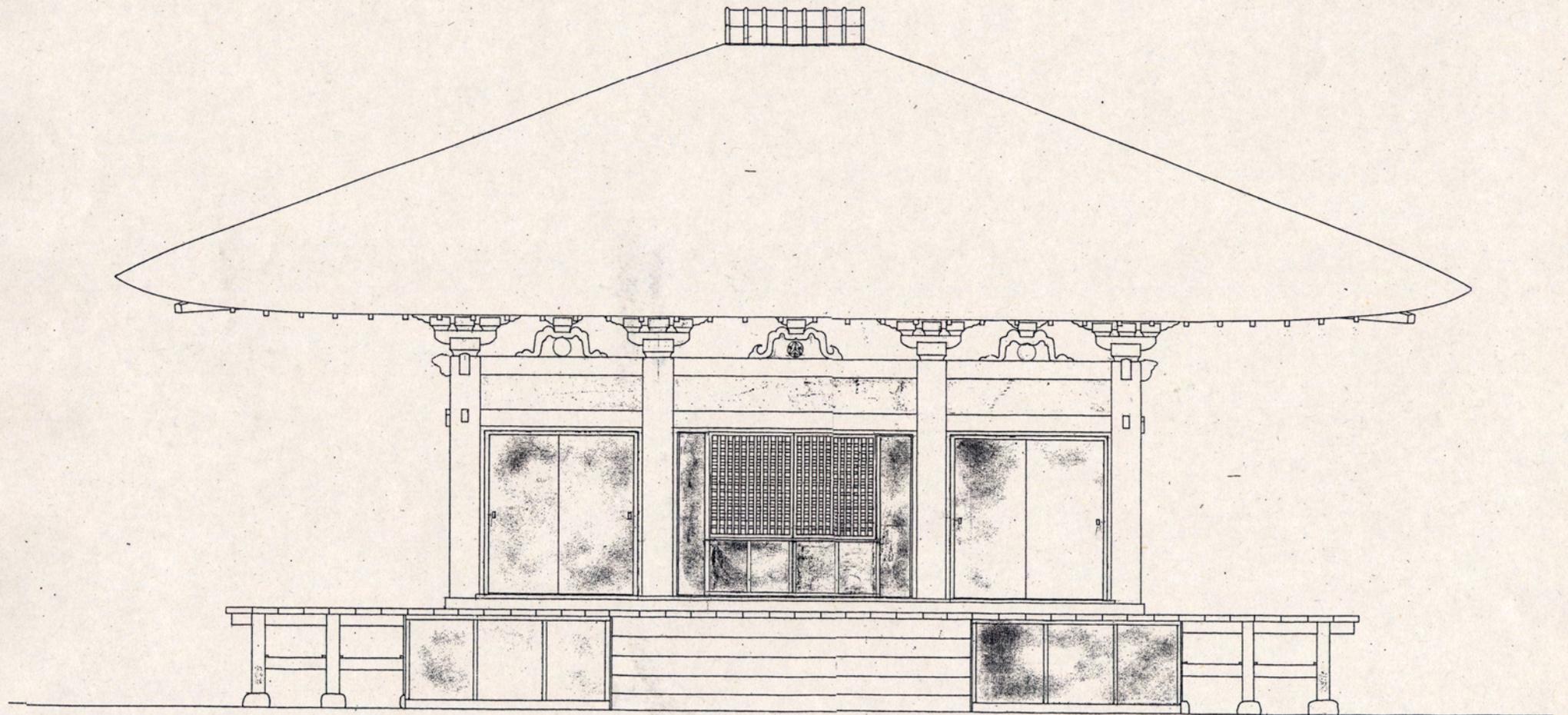
5. 調査者 青木秀雄、北川瑩



現場名	旧阿弥陀堂復元予想図
	縮尺 1/60

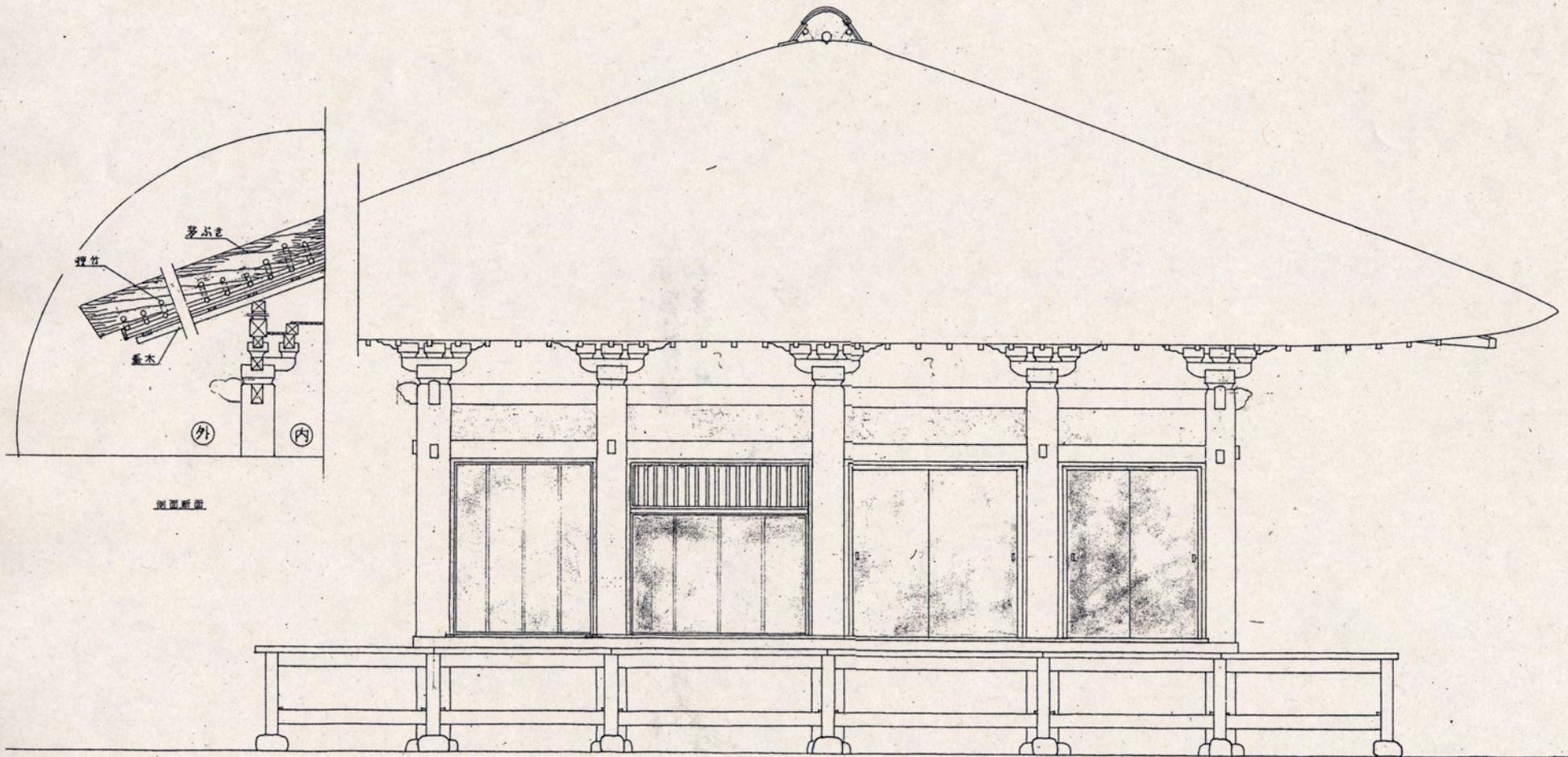


現場名	旧阿弥陀堂本堂内御堂(須弥壇)		
縮尺	1/40		



現場名	阿弥陀堂正面			
		縮尺	1/60	

A1-A24
縮尺1/60



側面断面

現場名	阿弥陀堂側面			
		縮尺	1/40	